

### 3 揺れてから津波が襲来するまで

2011年の東日本大震災では、津波による甚大な被害が発生しましたが、揺れによる建物被害は津波に比べるとそれほど大きくはありませんでした。

一方、1995年の阪神・淡路大震災では、神戸市や西宮市の一部地域、密集市街地のエリアでも震度7の地域があり、揺れによる大きな被害が発生しました。建物は倒壊し、火災が発生しても水がない、あるいは倒壊した建物に道路がふさがれて消防車も全ての火災には対応できないという状況でした。また、急傾斜地や造成地では土砂崩れや液状化が発生して、路面が大きく壊れた地域もあります。倒壊した建物や高架橋が道路をふさいだところもありました。このほか、震度4や5弱程度の揺れでも、補強されていないブロック塀が倒壊した事例もあります。

私たちの高知県では、南海トラフを震源とする最大クラスの地震が発生した場合、阪神・淡路大震災クラスの強い揺れが長い時間継続し、その後に、東日本大震災クラスの津波に襲われることが想定されている地域もあります。

**地震による揺れと津波を別々のものと考えず、津波が来る前に大きな揺れによって自宅や市街地が被害を受けて、訓練どおりに津波からの避難ができない可能性も考えておきましょう。**

